

チェルノブイリ通信

2008年2月29日

No. 72

発行 NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク 事務局
連絡先 福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16(株)ウインドファーム内
TEL・FAX 093-203-5282
E-mail jimmu@cher9.to
URL <http://www.cher9.to/>
郵便振込口座 01770-1-65328
NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク

チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、
現地から求められる医療支援を行います。

この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



リュドミラ・ウクラインカさんの愛娘、アンナちゃん 2歳

*ベラルーシでの検診活動、新たなる段階へ
「乳ガン検診」への取り組み

*リュドミラ・ウクラインカからの心配な手紙

*チェルノブイリに行ったつもり学習会～帰国報告会
～行ってきました！21年目のチェルノブイリ～

*チェルノブイリ医療支援ネットワーク 活動報告

*チャリティヘアカットの舞台裏
『スネガビーク』を支える、ある兄弟

*ベラルーシ、ミンスクのNGO「コンフィデンス」
～健康、家庭、生活をめぐるその活動～

*2008年度通常総会報告

ベラルーシでの検診活動、新たなる段階へ 「乳ガン検診」への取り組み

報告/矢野 宏和（チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事長）



ベラルーシでの検診の様子

チェルノブイリ医療支援ネットワークのベラルーシでの検診活動も、新しい段階を迎えつつある。

チェルノブイリ医療支援ネットワークでは医療支援のステップとして次の3つの段階を考えてきた。ひとつは、緊急支援。戦争や災害、そして原発事故などにより、すぐに物資を被災地に届けなければならぬ状況における支援だ。チェルノブイリ原発事故が起きた直後、汚染されていない食べ物や医薬品、医療機材などを現地に届けたのが、それに相当する。

その次に必要になってくるのが、技術指導。届けた医薬品も機材もそれがきちんと使われなければ意味がない。支援物資を適

切に使いこなせる人材を育てることが重要になる。

3つ目が、技術を伝えられる人材育成。

支援活動の最終目標は現地の人たちの手で、検診活動が行われること。そのためには、現地で必要とされる技術を、現地の人

が自ら教え伝えていかなければならない。チェルノブイリ医療支援ネットワークの10年の甲状腺ガン検診の取り組みを通して、私たちはこの3つのコーナーをすべて曲がりきっている。

皆さんにもおなじみのアルツール医師はすでに現地の医師に技術を伝え初めている。次から次へ、その技術は受け継がれていくだろう。

昨年あたりから、日本の医師からも、「もう私たちがすることはないので」というコメントが届くようになってきた。むしろ日本の医学生などは逆に現地の医師から学ぶことができているという喜ばしい現状もある。

ふと、思う。「もう終わってもいいのかな」と。10年にわたる、日本の市民と医師、ベラルーシの医療関係者と市民の、甲状腺ガン検診という名の挑戦。

10年続けてたどり着いた私たちの立ち位置。そこをピークにして少しずつ、この取り組みに幕を引いてもいいのではないかな。

そんな想いを抱いて、山田さんに会いにいった。そして、私は改めて、広島がヒロ

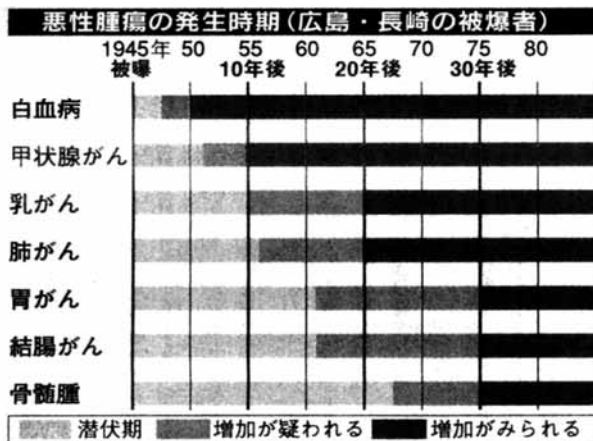
シマと表記されることの意味を知り、ヒロシマとチェルノブイリの関係の深さを感じるようになる。

山田さんの視野には、今後の取り組みの新しい課題がすでに明確になっていた。

「乳ガン検診」である。

世界的に、もちろん日本でも増加傾向にある乳ガンの検診。その重要性はなにも、ベラルーシに限ったものではない。

が、ベラルーシに残るチェルノブイリの傷が、ベラルーシで乳ガン検診を行うことの重要性を高めている。それを裏付けるのが、左図のヒロシマの記録。



1945年原爆が投下された後、甲状腺ガンに続いて乳ガンが増えている。

チェルノブイリでもまず問題になったのが甲状腺ガンで、故に私たちの検診活動も甲状腺を対象にしたものだった。

このようにヒロシマを通してチェルノブイリを見ると、「乳ガン検診」の必要性が浮かび上がってくる。そして、それは現地の医師にとっても懸念事項であり、何よりもチェルノブイリに生きる女性たちの不安となる。

で、この乳ガン検診。年々カンパも減っていく中で、できるのか？

「できる」、のである。

なぜなら、「これまでの甲状腺ガン検診で培ってきた経験や技術があるから。医療器材なんかもそのまま使える」と山田さんは言う。なので、特殊で高価な医療器材を購入して届ける必要もない。

まず取り組むこととして山田さんが挙げるのが、「日本から乳ガンの専門医を派遣して、現地の医師に乳ガン検診のやり方を教える」こと。また、乳ガンの場合、患者さん自身が自分の手で乳ガンを調べる方法があるので、それをベラルーシの人たちに教えることも大事という。

今年秋に予定されているベラルーシ、プレストでの8回目の甲状腺ガン検診に集まった人に乳ガン検診の内容を説明して、その場で行ってみることもできるかもしれない。乳ガン検診を望む現地の声も多く、これまでの実績と信頼もあるか

ら、そんなに難しいことではない。

でも、だからといって、いきなり現地で乳ガン検診をやるといことはあり得ない。この間、検診をサポートしてくれたベラルーシ赤十字、国立再教育センター、ミンスク第10番病院のラリサ教授、プレスト州の保険局に、乳ガン検診についての相談や、その内容についてきちんと説明し、了解を得ること。そうした手順を踏まないと、持続的な関係は築けない。

それは、長年、医療コーディネーターを務めてきた山田さんがもっとも大切にしていることでもある。

そのための事前調査もできれば5月か6月にやっておく必要があるだろう。うまく事が進めば、今年中に、乳ガン検診に向けた第一歩が踏み出せるかもしれない。

チェルノブイリ医療支援ネットワークの取り組み。一人でも多くの子どもたちを助けようと始まった取り組みも17年。チェルノブイリ原発事故からは20年以上が過ぎた。事故当時、子どもだった層は、今もまだチェルノブイリの放射能の呪縛から逃れられずにいる。ベラルーシの人たちが健康の面で安心して生活していくための手助けを、これからも取り組んでいきたい。

リュドミラ・ウクラインカからの心配な手紙

先日、ベラルーシ現地スタッフのリュドミラ・ウクラインカから心配なメールが届いた。彼女の健康も気になるが、同時にチェルノブイリの被害を被った人々の状況も心配にさせるその内容。チェルノブイリが過去のものにされようとしているなか、病を患った人々の生活はどうなっていくのか。



メールをありがとうございました。お元気そうで何よりです。私の体調のことを心配してくれてありがとうございました。9月から10月はとても大変でした。検査のために、3週間半も通院しなければなりませんでした。

ベラルーシの医療システムも変化してきました。社会福祉事業のための予算が削減されているため、市民へのサポートも十分ではありません。検査の後、医師は、私は健

康で働くこともできるから、国の補助が無くても、必要な薬は自分で買えるだろうといました。

私の病気は、チェルノブイリ原発事故によるものです。政府は、チェルノブイリによってもたらされた病気などにはすべて保障すると言っています。でも今回の私のように、健康であると診断されたら、その時点で保障は打ち切られます。私に限らず、多くの人々がこのような状況にあります。

私は、医師の診断結果に同意していません。そのため、別のもっと専門的な検査を受けました。そこで甲状腺を精査してもらい、リンパ節の肥大がいくつか見つかり、そのうちの一つが悪性リンパ種の可能性があると言われました。そして、この先5年間の検査が必要であると言われました。

それではまたお便りします。日本の皆さんによりしくお伝えください。

リュドミラ・ウクラインカより

チェルノブイリに行ったつもり学習会～帰国報告会

～行ってきました！ 21年目のチェルノブイリ～

報告/尾崎 由美 (チェルノブイリ医療支援ネットワーク事務局)

2008年1月12日(土)北九州市立西部勤労婦人センター「レディスやはた」にて、『行ってきました！ 21年目のチェルノブイリ～帰国報告会～』を開催しました。ベラルーシ/チェルノブイリの最新情報と「核」被害の実態について、ロシア語医療通訳兼コーディネーターの山田英雄さんと理事・事務局スタッフが現地の写真や資料などを紹介しながら報告しました。

会場には、初参加の方や常連ボランティアさんなど、男女問わず20代～50代まで幅広い参加者が集まりました。山田さんは、いくら平和利用と言っても、核施設であれば、実際に核汚染が広がり、健康被害が生じているという事実を紹介され、医療通訳&コーディネーターという立場から、現地の人々の思いを日本の人々につなげ続けている熱い思いを伝えてくださいました。

山田英雄氏 報告

「旧ソ連邦における核被害」概要

カザフスタン共和国にあるセミパラチンスク地下核実験場には1994年に初めて行きました。98年に「ヒロシマ・セミパラチンスク・プロジェクト」が立ち上がり、医療顧問となり、それから毎年行っています。

1963年以降、これまで地上や大気圏爆発によって行われた核実験が地下で行われるようになりました。主な理由が、「核の平和利用」として農業灌漑・ウラン鉱山掘削などの目的です。旧ソ連では国土的に核汚染が広がっていることになりました。周辺住民には多くの白血病がみられました。核実験以降、汚染物質を含んだ水は川を流れ、北極海・カスピ海まで汚染されたと推測されます。

地下核実験により、近隣の村は汚染されました。セミパラチンスクにも被爆状況があったのですが、公式な文書では大都市には汚染は広がっていないとなっています。パニックを避けるためだったと思われる。

核実験場内には研究所があり、19

95年には実験用原子炉がまだ稼働していました。

地下核実験には横穴式(原爆データを集める)、縦穴式(貯水・灌漑など平和利用目的)の2種類があります。横穴式の実験後は丘陵が崩れて細かい岩だらけになっています。

縦穴式で農業灌漑用に作られた人工貯水池は、「原子の湖」と呼ばれ、観光名所となっています。機密性を保つ地質の特長を持っています。深さ100m、直径500m。現在はたくさん魚が生息しています。魚の肉には放射能はないが、骨には大量の放射能が含まれていて、水質自体は放射能は高くありませんが、まわりの石には残っています。



横穴式核実験場爆心地付近の様子
(1kmくらいはこの状態。測定器は今も振り切れる)



縦穴式による農業灌漑用チャガン人工湖
(放射線レベルが高い)

地上核実験が行われた近隣の村の人口は、どんどん減少しています。老人がほとんどです。村の診療所(病院ではない)では健康管理と検診を行っています。入院施設が必要な場合は大きな村へと搬送します。

村の診療所処置室の医薬品は十分なものがありません。50年代、核実験が始まって、ある村で、いろいろな放射能障害と思われる健康異常が確認されましたが、国からは調査を禁止するよう言われたそうです。他の村でも同様であったと推測されます。

03年からセミパラチンスクの診断センターでは、研究だけではなく、被爆者の検診や入院などの治療も行われるようになりました。

☆ ☆ ☆ ☆

このあと、チェルノブイリ原発事故の政治的背景や被災者の人数について、また、事故後のヨード欠乏地域での甲状腺ガン発生の構図の説明のあと、2006年に訪れた原発事故から30kmの立入禁止区域内の様子などが紹介されました。

(この訪問記は『チェルノブイリ通信69号』に詳しく記載しています。)

また、最近のベラルーシとして、2007年秋に訪れたミンスク市の大きな市民団体である「小児血液センター」の最新設備の紹介がありました。

最後に山田さんからの医療支援への提言がのべられました。「現地状況の確かな把握・現地の自立に向けた直接的な支援である事。」そのためには、1、医療物資の支援 (医療機器・医薬品) 2、医療技術向上のための支援 (検診・研修) 3、人材育成のための支援 (現地から学ぶ支援)、という支援が必要です。

事故から20年が過ぎ、甲状腺ガンの発症者は、子どもから10〜20代の若者へと移行してきました。妊娠出産などホルモンの影響がある人々へ、どういうサポートをしていくかが、これからの大きな課題になっていくと思います。

☆ ☆ ☆ ☆

その後、理事・事務局による現地写真

のスライド発表と簡単な報告を行ない、約2時間半の報告会を終了しました。

(07年秋の調査報告は『チェルノブイリ通信71号』に詳しく記載しています。)

参加者のみなさんからは以下のようなご意見をいただきました。ありがとうございます。

- 活動内容や事故の悲惨さがわかった。
- 街の様子や検診の様子、現地の人のことが見られた気がする。

- 今まで被災地の映像や写真ばかり見てきたので、自分の中でベラルーシという国のイメージが固まっていたのですが、先進的な街並の写真を見てホッとしましたような感覚です。これからの課題として検査技師の育成が挙げられていましたが、新しい課題が見つかるという事は、着実に進歩している証明だと思います。

- チェルノブイリに関して情報は、新聞や本から得ていたが、実際に援助活動をしている方の話を聞くと、現場の状況が伝わってきた。

今年度も会員の皆様と触れ合える場として、座談会を定期的の実施します。現在は福岡市、北九州市での開催がほとんどですが、お住まいの地域で開催をご希望の方は、どうぞご遠慮なく事務局までご一報ください！

チェルノブイリ医療支援ネットワーク 活動報告

■2007年11月17日(土)

福岡教育大学学園祭にて講演

構内の教室をお借りし、チェルノブイリ医療支援ネットワークの活動報告会を行いました。参加者は少なかつたですが、熱心に活動報告を聞いてくださいました。ありがとうございます！

■2007年12月8日(土)

こくさいひろばのちきゅうめぐり

福岡市内にて、いろいろな国の文化や遊びを知ろう！というイベントがあり、その中でベラルーシ共和国について紹介する時間をいただきました。小さなお子さんもいらつしやう、「医療支援」という堅い活動内容をわかりやすく伝える難しさを実感しました。

■2007年12月8日(土)

& 2008年1月12日(土)

チェルノブイリに行つたつもり

学習会(第5回)

第5回のテーマは「行つてきました！ 21年目のチェルノブイリ」ということで、07年秋にベラルーシを訪問した調査団による帰国報告会を開催しました。詳しくは別ページの報告をご覧ください。

■2008年1月23日(水)

ヘアサロン・スネガビーク反省会

毎年恒例のヘアカットとチェルノブイリ・チャリティのコラボイベント、「ヘアサロン・スネガビーク2007」の反省会を行いました。07年の報告と反省、そして08年も開催するかどうかなどについて夜遅くまで話し合い、満場一致で08年も秋に開催することになりました。来年もどうぞよろしく願います！

■2008年2月9日(土)

あつたかベラルーシ料理教室

ベラルーシ出身の留学生を講師にお迎えし、ベラルーシ料理教室を開催しました。時間が限られていたため、ボルシチとドラニキの2品のみでしたが、大変美味しく出来上がりしました。3月には北九州市でも開催いたします。どうぞふるってご参加ください！



ベラルーシ料理教室の様子

自分の幸せのために人の幸せを考えたい

チャリティヘアカット「スネガビーク」を支える、ある兄弟

報告/寺嶋 悠 (チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事)



チャリティヘアカットの発起人、井上充昭さん

福岡の秋のチャリティイベントとして、すっかり定着した「チャリティ・ヘアサロン『スネガビーク』」。

このイベントの発起人である井上充昭さんは、普段は「ヘア・ヌーダ」(福岡市早良区)で美容師として働いている。充昭さんがボランティアをしたと考えたのは、偶然見たテレビ番組がきっかけだった。

藤原紀香さんが、日本のメディアがあまり報道しなかったアフガンの惨状を目の当たりにして自分ができることを考え、帰国後に自分で撮ってきた現地の写真展を開き伝えることを始めたという内容だった。

「彼女なりの方法で、アフガンを伝えようとしている姿を見て、僕にも美容師として何かできることはないのだろうかと考えようになったんです。」

自分の技術を活かし、困難な状況にある人に

対して、意義のあるお金の送り方や関わり方ができないだろうか。そう考えた充昭さんは、NGOやボランティアによく関わっていた弟の「いのうえしんぢ」さんに相談。しんぢさんはイラストレーターという仕事を通じて、活動を支える会員さんの一人でもある。それならばぜひと、兄の充昭さんの思いを事務局へ伝え、これが『スネガビーク』の企画へとつながった。

充昭さんが店長を務める美容室「ヘア・ヌーダ」では、3つのスローガンを掲げている。「たくさんのお客さまに喜んでもらうこと、スタッフが幸せになること、そして社会貢献をすること。お店で働くスタッフには、いつも『利他的な心を持って仕事をしよう』と話しています。自分を大切にしたいのなら、他人を大切にしなければいけない。自分のためにも、まず他人のために何ができるかを考えないといけないのではと思うからです。」



いのうえしんぢさん

『スネガビーク』でも、井上さんはイベントの収益を上げるためだけに髪を切るのではないと考える。他人を大切にすることが、回りまわって自分たちの幸せにつながる。肩に力を入れず、井上さんたちがそんな気持ちで笑顔でお客様を迎えているためだろう、当日お客さんへのアンケートでは、美容師やボランティアの明るくさわやかな対応に好印象を持ったという声が多い。

何もかもゼロからのスタートだった第1回『スネガビーク』(2004年5月)で、特に難航したのが会場選び。交通アクセス、会場使用料、衛生面等の問題をクリアできる場所を探して、天神地下街、市立青年センター、警固公園、天神三越のライオン広場など、あちこち当たった。しかしどこもハードルが高く、企画が挫折しそうになった時、「社会貢献事業の一つとして、学校のスタジオを会場協力できるかもしれ



チャリティヘアカットの様子

ない」と、井上さんのお店のお客さんだった大村美容専門学校が提案をくれたことが発端となり、大村美容専門学校の会場提供へとつながった。練習用の広いスタジオや備品を提供して下さるだけでなく、「美容師を目指す若い学生に、仕事を通じて社会に貢献する意味を考えさせたい」と、毎回約35名の学生や教員がボランティアとしてイベントを支えてくれている。

一人の美容師の思いが私たち医療支援NGOとつながり、他の美容室スタッフや大村美容専門学校まで動かし「チャリティ・ヘアサロン『スネガビーク』」。

「僕らがこのイベントで関われるのは、世の中にあるいろんな問題のごく一部ではない。ただ小さいことから大事なのではないかと思っています。すべてのことについて優しく接し、思いやりを持って生きたい。その一つとして、このイベントを手伝うことができたらと思っています。」

一人の美容師の思いは、今多くの人へとその輪を広げた。前例のない中で初めて開催してから4年、『スネガビーク』は、多くの人の思いをつなぎながら、また次年度へ向けて動き出そうとしている。

協力サロン連絡先

ヘア・ヌーダ (TEL 092-715-2770)
エトワール (TEL 092-711-1738)
ウエストパーク (TEL 092-781-3285)
ピーチ (TEL 092-725-2732)
アングル (TEL 092-846-3335)

チェルノブイリ医療支援ネットワーク事務局からのお知らせ

◆『チェルノブイリ通信』メール配信を開始します！

次号の『チェルノブイリ通信』73号より、PDFによるメール配信を始めます。配信をご希望の方は、事務局〈jimu@cher9.to〉へ以下についてe-mailでご連絡ください。

*お名前

*配信先のメールアドレス

(※携帯電話のメールアドレスには配信できませんので、ご了承ください。)

☆メール送信の際には、題名を「チェルノブイリ通信メール希望」としてください☆

経費&資源節約のため、たくさんの方のお申し込みをお待ちしております！

◆「イーココロ！」にて、クレジット募金がスタート！

オンライン・ショッピングや資料請求などで国際協力活動への寄付ができるサイト「イーココロ！」〈<http://www.ekokoro.jp/>〉にて、お手持ちのクレジットカードで直接寄付できる『クレジットカード募金』が始まりました。

団体紹介ページのロゴの下にある、「クレジットカード募金」からご利用いただけます。クレジットカード手数料として、10%の手数料が必要となります。「イーココロ！」の無料会員登録をお手続きの上、ぜひぜひご活用ください。

☆チェルノブイリ医療支援ネットワークの団体紹介ページはコチラ！

➔ <http://www.ekokoro.jp/ngo/cher9/index.html>

◆「雪だるま3号」カンパの受付を開始しました！

日本・ベラルーシの医療専門家や患者さんに乗せてベラルーシの大地を走る移動検診車「雪だるま号」。08年現在は、2代目となる「雪だるま2号」がその役目を担っています。今後の車体の老朽化に備えて、07年10月より、「雪だるま3号」購入資金の積立をスタートするとともに、カンパの受付も始めました。郵便振込用紙に、新たに【雪だるま3号カンパ】の欄を設けています。どうぞ資金集めにご協力をお願いします。

◆会報誌『チェルノブイリ通信』常設店を募集しています！

『チェルノブイリ通信』をお店などで配布していただけますか？『チェルノブイリ通信』巻末ページにて常設店としてお名前をご紹介させていただきます。常設していただける場合は、事務局までご連絡ください。

◆「のぞみ21」雑貨の常設販売店を募集しています！

福祉工房「のぞみ21」の手作り雑貨をお店などで販売していただけますか？『チェルノブイリ通信』巻末ページにて常設店としてお名前をご紹介させていただきます。詳細は事務局までお問い合わせください。

ベラルーシ、ミンスクのNGO「コンフィデンス」

～健康、家庭、生活をめぐるその活動～

ベラルーシ、ミンスク市にある現地NGO「CONFIDENCE（コンフィデンス）」は、健康に重点を置き、貧困層の母子のケアを行う市民団体です。チェルノブイリ医療支援ネットワークは2001年より協力体制をとり、支援を続けています。

2007年秋、代表のイリーナ・アリノビッチさんにインタビューしました。

(聞き手：副理事長 津島朋憲)



代表のイリーナさん

——コンフィデンスのマークはこうのとりますか？

はい、そうです。こうのとりはベラルーシのシンボルです。

——イリーナさんは毎日一日中オフィスにいますか？

オフィスには、いつも同じ人がいるわけではありません。私たちのところで働いている人たちは、教師や心理学者など他に主な仕事を持っています。祝日など時間があるときにオフィスに来て、自分の担当する実務的な仕事をしています。人道支援物資が届いたら分配作業をしたり、あるときは、健康についての講義をしたりしています。

——健康についての講義とはどういう内容ですか？

貧困家庭を中心とした12～16歳の子

もたちを対象に、ミネラルなどのバランスのとれた正しい食事の仕方、正しいスポーツのやり方、放射能の管理、衛生面では、洗濯するときの薬品のことなどについて講義をしています。チェルノブイリの被災と関係がある子もいます。45分で1単位。4単位の授業を受けます。この講義を受ければ、喫煙者も1ヶ月でなおります。

——たばこを吸っている子もいるのですか？

はい。家庭の生活レベルにかかわらず、この問題があります。問題は麻薬のようにグループでためして、そのまま続けてしまう子がいることです。

これらの講義の総括として、去年の1、2月には、講義を受けた子どもたちを40人スイスに送り、新鮮な空気のもとで合宿を行い、講義内容を実践させました。正しい食事やスポーツの実践、さらに環境問題についても学びました。

——合宿は本人が希望すれば受けられるのですか？

一般的なサマースクールに行くお金も払えないような貧困家庭であることが条

件です。

この健康回復プログラムから帰ってくると、病気をしにくくなります。今はヨーロッパの空気の方が新鮮ですし、水の関係やいろいろなことから、一ヶ月滞在すれば、放射能に汚染されたものも排泄されます。この活動は続けていきたいと思っています。

夏には毎年300人の子どもたちを、セシウム、ストロンチウムなどに全く汚染されていないところへ送り、合宿を行います。今年はドイツ、オーストリア、ベルギーへ向かいます。

——何をやるかはきまっていますか？ 観光だけではないのですか？

当然せっかく来たのだから、時間を割いて観光もします。

スイス、オーストリアは合宿のスタイルをとります。このため、集団的に同じ動きができて、同じ教育ができます。ドイツではホームステイの形をとりますが、受入先の家庭の事情によって、観光もあつたりなかったりして、子どもの経験に差が生まれるため、あまり好きではありません。

——合宿はどれくらいの期間ですか？

受け入れ側のドイツの家庭事情によつて、最低2週間から3ヶ月。ベルギーも同じ期間です。スイスとオーストリアは1ヶ月、さきほどお伝えした40人程度の合宿のことです。

——スイスでのバケーションというのはベラルーシでは一般的なのですか？

いいえ。スイスは物価が高いですから。スイスの、かつて戦後孤児を支援していた団体が、いま戦後孤児はいませんので、他国の支援すべき人を受け入れてるのです。

——日本のわたしたちにできる支援はありますか？



保養地での食事を楽しむ子どもたち

日本に行くのは交通費だけでも高いです。それから、チェルノブイリ医療支援ネットワークからは、現在のヨーロッパ合宿へ行くまでの資金をサポートしてもらいたい、だれかが代表として同行する、という形の支援なら可能ではないでしょうか。

——40人全員の合宿費用のサポートはできませんが、たとえば日本から1人か2人支援しようと思ったら、いくらくらい必要ですか？

見学や、目的地へ行くまでにかかるバスタ代は、一台5000ユーロです。途中、チェコかポーランドで1泊するのに15ユーロかかります。ユースホステルのようなところに行けば1日30ユーロが必要。それと保険代が掛かります。

☆ ☆ ☆

現在のバスチャーターにかかる費用などはドイツのスポンサーが賄ってくれているそうです。なぜ、コンフィデンスとドイツのスポンサーとのパートナーシップが強くなったのか、それは、コンフィデンス設立のきっかけにまでさかのぼります。また、現在コンフィデンスへ手渡している支援金はどのように使われているのか。続きは次回以降の通信でお届けします！

NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク 2008年度通常総会

日時：2008年2月16日(土)

場所：福岡市NPO・ボランティア交流センター

交流センター

務局)

『2007年度事業報告』

※2007年1月1日～1月31日

までの任意団体「チェルノブイリ支援運動九州」の活動を含めて記載する。

(1) 特定非営利活動に係る事業

被災地の医療機関や関係施設、及び被災者に対する支援事業

a プレストにおける第7回検診団の派遣

【期間】2007年10月20日～

2007年11月1日

【メンバー】野宗義博医師(済生会広島病院)、渡會泰彦臨床検査技師(日本医科大学付属病院病理部)、星正治

教授(広島大学原爆放射線医科学研究所)、福岡由紀子(チェルノブイリ医療支援ネットワーク賛助会員)、鈴木浩介(日本医科大学5年生)、瀧音

美那子(同)、山田英雄(ロシア語医療通訳・コーディネーター)、マリナ・チャイキナ(ロシア語通訳)、津島朋憲(チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事)、尾崎由美(同事

【内容】プレスト市での甲状腺ガン検診、医療機材・試薬等の贈呈、医学シンポジウム、他

【支援】移動検診車「雪だるま2号」維持費1500ドル(ベラルーシ赤十字)、細胞診用器具、医療器具・試薬購入費2000ドル(プレスト州立内分診療所)、医療器具・試薬購入費1500ドル、医学シンポジウムコーディネーター料500ドル(ミンスク第10番病院)

b 被災者と障がい者による現地福祉工房「のぞみ21」支援

商品の仕入、関係者への取材を実施。寄付金3960ドルを贈呈。

c 母子を支援する現地NGO「コンフィデンス」支援関係者への取材を実施。プロジェクトの支援金900ドルを贈呈。

被害の実態の把握、援助のための調査研究事業

a 第27次調査団の派遣(2007年10月20日～2007年11月1日)

b アリョーシャ・スベヤトーシクさん取材(2月18日～3月3日)

チエルノブイリ原発事故の被害を受けた地域の状況の一般への周知、及び被災者の福祉向上のための啓発事業

a 学習会・報告会・イベントの開催

【学習会】

チエルノブイリに行ったつもり学習会 2007

第1回：チエルノブイリ原発事故の隠された真相～地震誘引説について～(4月26日、5月12日)

第2回：チエルノブイリと日本をつなぐ手作り雑貨～「のぞみ21」との出会いから生まれた絆～(6月9日)

第3回：国際協力のひとつのカタチ NGOで働くこと(8月11日、9月8日)

第4回：映像でたどる、チエルノブイリの21年(10月13日、11月10日)

第5回：行ってきました！21年目のチエルノブイリ～帰国報告会～(12月8日)

【報告会】

医療専門家による活動報告会(3月18日)

(報告者：武市宣雄医師、久保田有紀臨

床検査技師、星正治教授、山田英雄医療通訳)

【イベント】

チャリティヘアサロン・スネガビーク2007(10月8日)
(来場者110名、収益金129,375円)

b 会報誌『チエルノブイリ通信』の発行(年4回)。正会員・賛助会員へ送付、イベントなどで配布。68号：1月29日、69号：4月26日、70号：7月30日、71号：11月28日

c 講師派遣
1月12日 福岡教育大学
4月15日 ちくほう共同作業所「虫の家」(福岡県鞍手郡)
6月5日 北九州市立石峯中学校
6月13日 NPOマネジメント講座(福岡市)

6月15日 長崎県職員連合労働組合女性部定期大会
6月25日 クラーク記念国際高等学校・小倉キャンパス
6月29日 北九州市立年長者研修大学校穴生学舎
7月20日 北九州市立大学
9月17日 地球市民どんたくワークショップ(福岡市)
11月8日 福岡市立志岐中学校

11月17日 クラーク記念国際高等学校・福岡キャンパス
11月17日 福岡教育大学
12月8日 こくさいひろばのちきゅうめぐり(福岡市)
12月20日 立命館アジア太平洋大学

d パネル展示・イベント参加
【パネル展示、リーフレット等の設置】
3月24日～3月30日 シネリーブル博多駅(『みえない雲』上映期間)
6月25日～7月9日 神戸市外国語大学
8月15日～8月28日 こくさいひろば(福岡市)
10月13日～10月21日 北九州国際交流ウィーク2007
10月28日 ふれあいフェスタ2007(北九州市)

【イベント参加】
3月21日 ありがとうふくおか2007(福岡市)
4月29日、30日 海の中道グロバルビレッジ2007(福岡市)
5月3日 にじのみさきまつり(熊本県阿蘇市)
5月19日 五月病祭(福岡市)
5月27日 NPO・ボランティア見本市(福岡市)
9月15日～9月17日 地球市民どんたく2007(福岡市)

く2007(福岡市)
10月6日、7日 市民活動まつり in ふくおか
10月14日 ハートフルフェスタ福岡2007
10月21日 『六ヶ所村ラプソディー』福岡上映会
11月3日 北九州市立石峯中学校文化祭バザー

e インターネットによる情報発信
【ウェブページの維持・管理】
ウェブページを管理し、学習会やイベント等の情報を発信。
【メールマガジンの発行】
毎月26日にメールマガジンを発行し、活動報告やボランティア・イベント等の情報を発信。
f 資金調達
【寄付金受入窓口の拡大】
*5月より郵便自動払込による寄付金の受入を開始
*6月よりイーバンク(eibank)に口座を開設し、寄付金の受入を開始
*11月より移動検診車「雪だるま3号」キャンパの受入を開始

その他
a ボランティア、インターンの募集、受入

福岡教育大学より2名の事務局イン
ターンを受人。

事務局ボランティア、会報発送ボラ
ンティア、イベントスタッフ等の募集、
受人。

b ネットワーク活動

福岡国際関係団体連絡会(FUKU
NET)、北九州国際交流団体ネット
ワーク(KINET)、(特活)NGO
福岡ネットワーク(FUNN)、福岡市
人権啓発センター(ココロンセン
ター)、福岡市NPO・ボランティア交
流センターに加盟・登録。

c 組織運営・強化

【定期会議の開催】

事務局会議(月1〜3回)、理事+事
務局会議(月1回)を行い、活動報告や
今後の活動について協議。

【ワークショップ・セミナー参加】

1月13日 NPO法人設立支援セミ
ナー(福岡市NPO・ボランティア交流
センター)
1月13日、14日 NGOマネジメン
ト講座(FUNN)
2月11日、12日 PCM手法を用いた
申請書作成研修(JICA九州)
4月7日 NPO法人事業報告書セミ
ナー(福岡市NPO・ボランティア交流
センター)

5月20日 理念づくりワークショップ
(福岡県田川郡赤村)

8月21日、ほか NPO会計セミナー
(福岡県NPO・ボランティアセンター)

12月13日 NPO法人組織運営セミ
ナー(福岡市NPO・ボランティア交流
センター)

(2) その他の事業

物品の販売

チエルノブイリ支援コーヒー・紅茶、
福祉工房「のぞみ21」雑貨、チエルノブ
イリ関連書籍等の紹介・販売

『2008年度事業計画』

(1) 特定非営利活動に係る事業

被災地の医療機関や関係施設、及

び被災者に対する支援事業

a ブレストにおける第8回検診団の
派遣
秋に医療専門家をベラルーシへ派遣

し、現地関係者と合同での甲状腺ガン

検診を実施。必要とされる医療機材・試
薬を支援。病理スタッフの人材育成。医
学シンポジウムの開催。

検診プロジェクトの拡大 乳ガン

検診の実施に向けて、国内外での情報
収集。

b 福祉工房「のぞみ21」支援

品質向上、新商品の提案、広報の工夫

などを協議する定期的な戦略会議を实
施する。

委託・卸し条件を具体化し、マーケッ
トを広げる。

c NGO「コンフィデンス」支援

現地での活動や関係者のインタ
ビュー等を、会報誌やウェブページで
紹介する。

被害の実態の把握、援助のための

調査研究事業

a 医療専門家会議の開催

これまでの甲状腺ガン検診プロジェ
クトの総括として、専門家を交えた評
価会議を開催。

b 第28次調査団の派遣

秋の検診団派遣にむけて調査団をベ
ラルーシへ派遣し、関係者との打合せ
や調査を行う。

チエルノブイリ原発事故の被害を

受けた地域の状況の一般への周知、
及び被災者の福祉向上のための啓発
事業

a 定期的な交流会の開催

b チャリティイヘアサロン・スネガ
ビーク2008の開催

c 会報誌『チエルノブイリ通信』の発
行。新たにPDFデータによる配信を

検討、実施。

d 団体ウェブページ、ブログの充実、
メールマガジン読者の拡大、他団体と
の相互リンク

e 会員拡大、資金調達

その他

a ボランティア、インターンの募集・
受人

(2) その他の事業

物品の販売

a チエルノブイリ支援コーヒー・紅
茶、「のぞみ21」雑貨、チエルノブイリ
関連書籍等の紹介・販売

2008年度役員

理事長 矢野宏和

副理事長 津島朋憲

理事 事 河上雅夫、山口英文、寺嶋
悠、谷口恵、小山浩一、吉本美貴、和

田幸策

監 事 川原秀之

事務局 三島さとこ、尾崎 由美

現在の会員数(※2月16日現在)

正会員 26名(個人)

賛助会員 2900名(個人/団体)

※収支決算書及び予算書について別紙
をご参照ください。

たくさんのお金をありがとうございました。

(敬称略・順不同)

吉次マミ 力丸邦子 緒方貴穂 小田久美子 栗田光子
 高山幸子 深堀ミチ子 宮元寿子・美帆 下田豊文
 財津悠子 北野薄 筒井毅浩 永尾久美子 久田文子
 藤山信子 関根敏子 川原美穂 中島美代子 榊田千絵
 鳥取治代 引田良子 西レイ 田中友加里 庄籠道子
 柴田眞理子 入田すま子 小野直子 木下るみ 稲吉
 清子 須崎海里・里仁・仁歩 木村紀子 桑原千鶴子
 高藤富美子 深田俊江 庵本千鶴 橋本照子 三丸祥子
 柳元秀昭 村上和代 サトウ矯正歯科クリニック 水
 落靖子 須納瀬みちよ 野村幸子 大谷正穂 河野穂波
 白水明代 木村みさ子 柘嶋一郎 津田瑛子 明道守
 弘 松尾博文 丸尾匡宏・英子 身吉三枝子 森戸春江
 岸川美好 中村幸枝 榎本みつ枝 ベールイ・アイス
 ト 小西功子 高柳俊哉 片山富美子 武田孝子 上條
 千栄 岩川靖子 Steven & Makie Sabotta 平田耕一
 白井美代子 山本里美 景山元子 上則尚子 宇都宮裕
 子 本田美穂子 松尾菊恵 吉武崇子 中本治嘉子 宮
 田香子 今宮諭枝 日高太 白濱豊 大石和子 桑田陽
 子 内田直美 浜北香代子 印藤ふみ 福井寿雄 赤星
 芳子 馬場登喜子 樋水カツ子 田口常幸 長谷祐子
 内田明子 渡邊裕美 林昌子 西尾れい子 加藤弘子
 和田茉莉恵 長棟かおる 前田・渡辺・中西・沖 豊田
 雅子 米家ひとみ 谷村禎一・牧子 佐野佐智子 草ヶ
 江幼稚園園児一同 高田有美子 馬場美保子 曾田敬子
 坂元サチ子 佐藤久美 井手美晴 永井美千代 豊田
 昌子 中島幸代 大城りか 浅倉カヨ子 廣底裕子 得
 能美樹 江口淳子 山内町子 江田鈴枝 林田英明 三
 宅桂子 野中孝子 新田靖子 永野沙智子 巽健・恵
 日本キリスト教会折尾伝道所婦人会 首藤展子 キー
 プ自然学校 めぐみ保育園職員一同 佐村りつこ 金内
 純子 宮脇正 松尾由美 富樫須弥子 河上由美子 中
 西孝子 相川美智子 平島憬子 古賀えみ子 華井紀子

福本智子 薬師寺眞利子 坂口馨子 松原こひつじ幼
 稚園 水野眞由美 西井田智枝 山路まり子 遠藤小織
 前田育子 力丸節子 石川須佐代 本武那保海 井上
 裕子 武田ひとみ 安達年克 石川須佐代 大園広子
 山内サオリ 山中晃代 藪陽子 本武那保海 磯本真澄
 富山洋子 榊悦子 中村朗子 早稲田矩子 里見照
 子 保坂尚子 岡野祐子 川添奈々美 木村雅子 久野
 マス子 斉藤るみ子 松元真寿美 上野陽子 滑川匡
 杉野典子 高瀬幸子 岡部晴美 吉本美由紀 守田智宏
 仁平加奈子 松岡和子 多賀直美 土井幸子 塚本成
 美 松本牧子 田岡峰樹 川村公子 北九州市立石峯中
 学校生徒会 チェルノブイリ友の会 澤田和子 グリー
 ンコープ生活協同組合おおいだ 三宅哲子 亀井廣子
 和田美樹 桑山道子 筑豊互助会 チェルノブイリ友の
 会伏見台菊池順子 吉川幸子 宮西いづみ じゃがい
 ものおうち 神田有希子 大久保伸子 後藤宇企子 友
 景忍 磯道綾子 松尾智恵子 土持秀男 珍部千鳥
 岩口香織 納富育代 古賀輝洋 坪川裕子 石本祥二郎
 榊悦子 蘇木淳子 大場満 永野沙智子 平笙子
 廣松初美 延壽富美 高山知佐子 水本敬子 佐藤照子
 大崎知恵 佐藤一江 室屋芳乃 佐藤進一 金山涼子
 田中京子 武田孝子 前田靖子 勝元克敏 中村洋子
 大中百合 山本敬子 相川靖 斉藤美代子 佐竹早苗
 藤本孝子 丸山小より 山本亮輔 河上雅夫 坂本ヒ
 ロ子 森川昇 竹田恵子 稲田照子 上村匠子 東海林
 由紀 富永隆史 川尻愛子 丹羽道代 大麻卓子 山中
 陽子 有末あけみ 片山登美子 福井初子 村西美由紀
 永江之子 中川曉夫 Aleksandrove Polina 白濱千
 恵子 村田聡子 三野桂子 清水悦子 内野希和美 片
 岡八重子

(2007年11月1日～2008年1月31日までに募金
 をして下さった方、ならびに「のぞみ21」雑貨、チェル
 ノブイリ支援コーヒー・紅茶の購入を通じて活動を支援
 して下さいました方です。通信にお名前を紹介することをご
 許可いただいた方のみ掲載しています。)

募金内訳

活動支援募金	341件	1,615,913円
「のぞみ21」カンパ	20件	57,463円
「雪だるま3号」カンパ	16件	60,000円
合計		1,733,376円

募金者からのメッセージ一部抜粋

●皆様の地道な活動に心から敬意を表します。被災
 された方々、こどもたちの幸せを願ってやみません。
 ●おいしいコーヒーをありがとうございます。●私
 達のできることを少しずつやっています。●チェル
 ノブイリの方々に少しでもお役に立てればと思いま
 す。●検診は今後も続けて下さい。●未来をのせて
 雪だるま号走れ！●ずっと世界中が幸せでいっばい
 になりますように祈ります。●皆様の健康を何より
 祈っております。●遠い日本の地からベラルーシに
 思いをさせています。●カンパで皆様の力になれる
 のであれば、とても嬉しいのです。●娘も私もマト
 リョーシカが大好きです。大切にしています。●お
 働きに感謝いたします。●皆さんで助け合って生き
 ていける世の中でありたいです。●支援の輪が
 広がりますように、願っています。●希望を持って新
 年を迎えられますように。●チェルノブイリのこと
 もに神様の幸せを送ります。●チェルノブイリは他
 人事ではありません。●お便り有難うございます。
 ●明るい未来がくることを信じています。●気持ち
 ばかりですが、お役立て下さい。●第7回検診団と第
 27次調査団の派遣お疲れ様でした。●世界の平和と
 世界中の人々の幸せを祈って、少しですが…●チェル
 ノブイリ支援に携わる方々、尊い仕事です。頑張っ
 て下さい。